資料１
オリンピック・パラリンピック
教育に関する有識者会議
（第３回）

長野市のオリンピック･パラリンピック教育

オリンピック･パラリンピック教育に関する有識者会議
平成27年4月17日（金）
長野市長　　加藤　久雄

長野オリンピック・パラリンピックの概要

〇大会名　第18回オリンピック冬季競技大会
〇期　間　1998年２月７日～22日（16日間）
〇実施競技・種目　７競技・68種目
〇参加国・地域　72　〇参加選手・役員　4,638人
〇獲得メダル　金５　銀１　銅４　合計　１０
〇観客数　144万3000人

〇大会名　第7回パラリンピック冬季競技大会
〇期　間　1998年３月５日～14日（10日間）
〇実施競技・種目　５競技・34種目
〇参加国・地域　32　〇参加選手・役員　1,146人
〇獲得メダル　金12　銀16　銅13　合計　41
〇観客数　15万1000人

長野市のオリンピック・パラリンピック教育

長野市のオリンピック・パラリンピック教育

大会基本理念の実現に向けて
オリンピック・パラリンピックを学校教育に

○　児童生徒の直接的な国際経験の機会

○　オリンピック・パラリンピックへの関心を高め、
　心身を積極的に鍛える実践の機会

○　競技見学や行事参加だけでなく、
　実際に行動し体験する喜びを得る機会

一校一国運動　市内75校で72の国や地域を担当

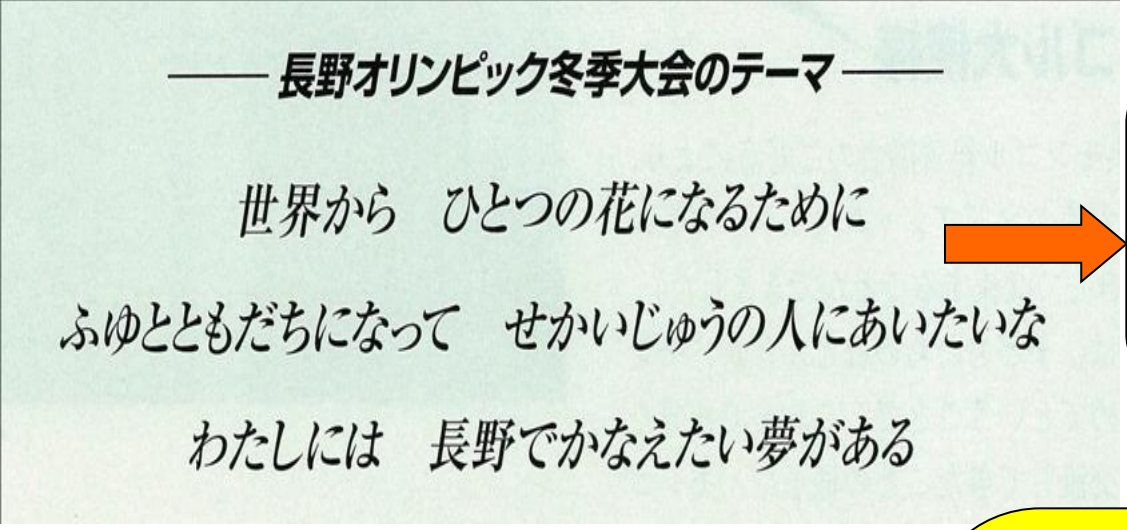
（別紙に一覧表）

それぞれの学校や、子供達の発想を大事に、独自性・自主性を尊重した学習を全校で実施

▲「これが本物のメダル！」
触らせてくれたカナダの選手

金メダルを触らせてくれたカナダのカーリング選手

オリンピック後にIOC本部に招待を受けサマランチ会長（当時）と記念撮影

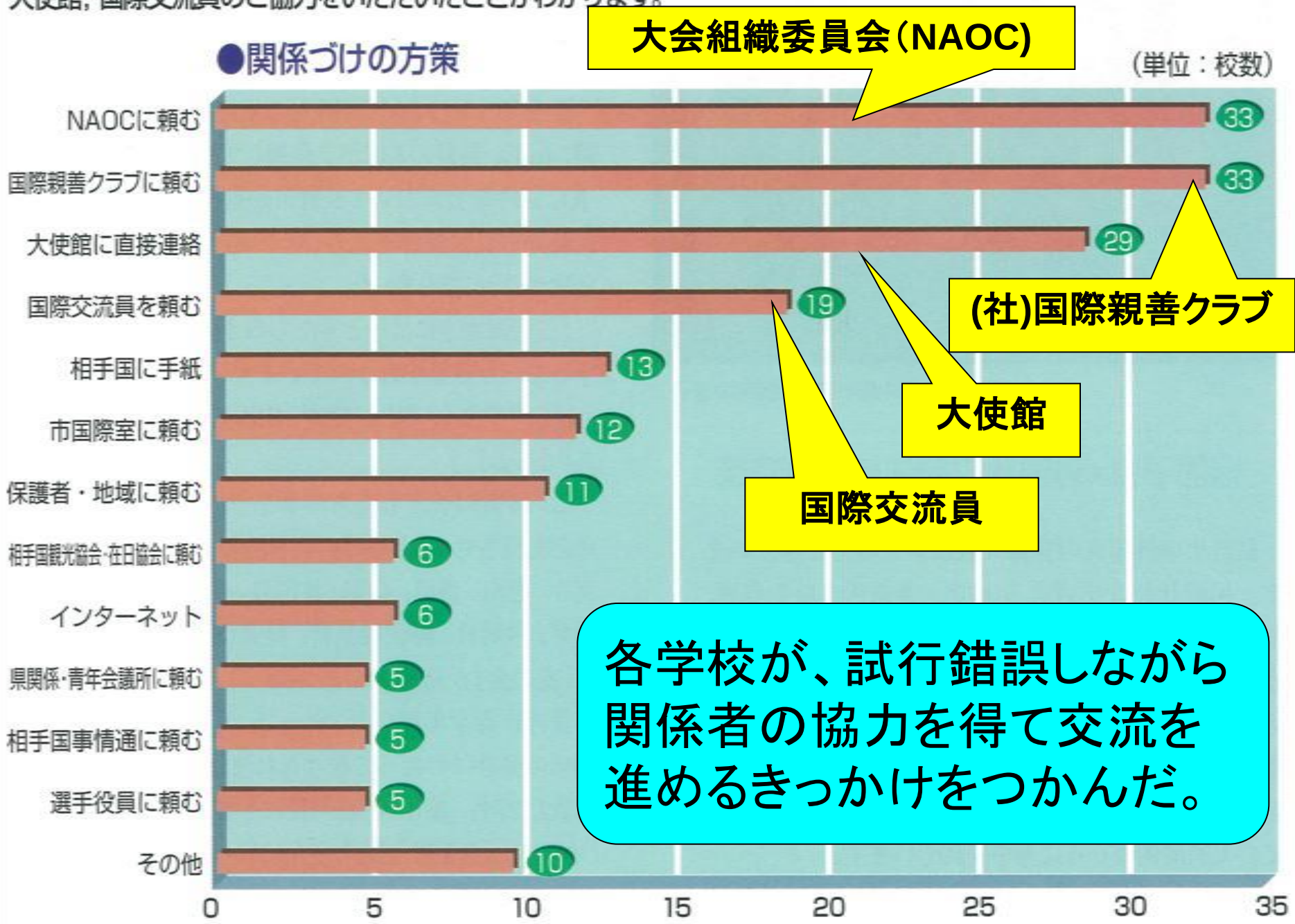


大会の2年前から
始まった一校一国運動

はじめは、
「相手国はどんな国？」
「交流の糸口はどこに？」
「本当に選手が来るの？」
「言葉の壁は？」
「費用や時間はどう確保？」

まずは、その国を知る
ことから始めよう。
関係組織や団体等に
協力してもらい情報を
集めよう。

下のグラフは各校が相手国とどのような方法でつながりをつけたかをまとめたものです。NAOC、国際親善クラブ、大使館，国際交流員のご協力をいただいたことがわかります。



各学校が、試行錯誤しながら関係者の協力を得て交流を進めるきっかけをつかんだ。

大会前に進む交流

コスさんに質問する六年生の子どもたち

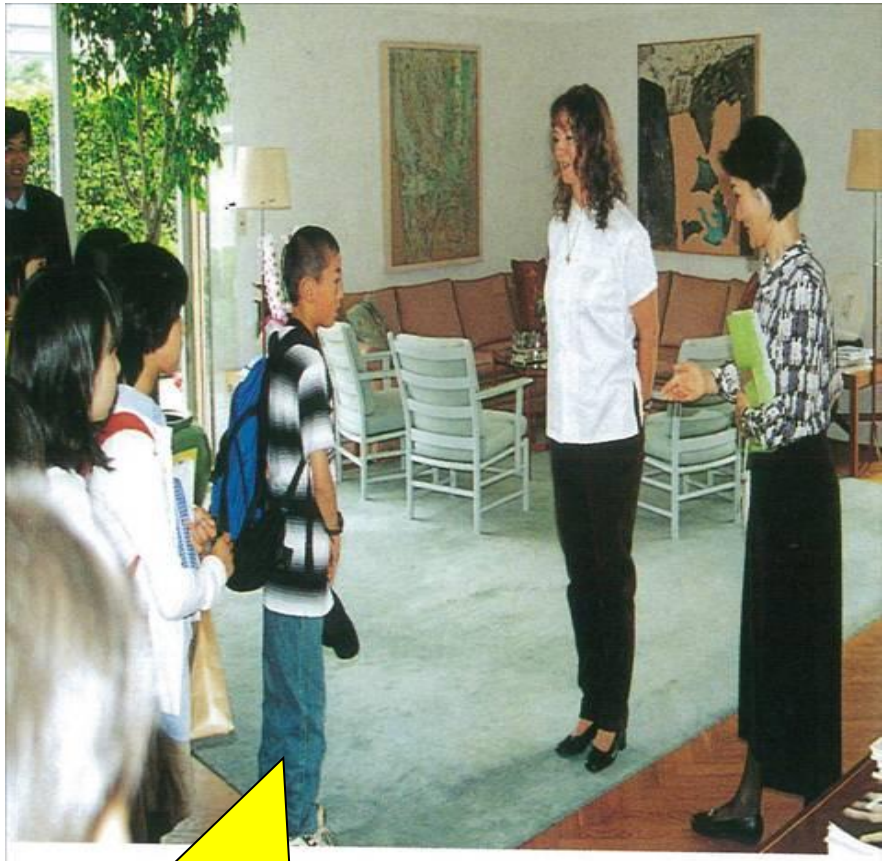
ノルウェーから
金メダリストの
コス選手が来校

お味はいかがですか（三

ボスニア出身の歌手ヤドランカさんを招いて交流会

■トルコ民族舞踊団来校

長野を訪れた人と交流が進む



大使夫人のお出迎え（保科小）

選手団長と交流する（綿内小）

東京への社会見学で
スウェーデン大使館訪問

選手団長や各競技のプレ大会を通して交流を深め、本大会での交流につなげることができた。

各学校が交流活動を通して、相手国のことを理解すると共に、日本の文化や日本のよさにも目を向けていった。交流相手と心のふれあいが次の活動のエネルギーとなり、本大会への期待が高まっていった。

本大会の活動・交流

ハンガリー語で、心をこめ力いっぱい国歌を歌う（三陽中）

パラリンピック聖火リレーと開会式での応援

10名1クラスの一年生がそろって日本選手団の入村式に（後町小）

オリンピック村入村式の国歌斉唱とレセプションの様子（日本選手団と）

▲手作りの旗を振って声援 ― 開会式で ―（附属中）

女子アイスホッケー　日本対スウェーデン戦

スウェーデン女子アイスホッケーチーム訪問

スロバキア大統領訪問

パラリンピックアルペン金メダリスト訪問

○オリンピック、パラリンピックを見て思ったことが二つあります。一つ目は、選手達が競技に勝つということだけではなく、いろんな国の人と知り合えるということを考えていることです。二つ目は、競技に負けてもあきらめない選手がいることです。ぼくは、オリンピック、パラリンピックは人と人をむすぶ、とてもすばらしいものだということがわかりました。（5年男子）

○閉会式の日、私はとても悲しかったです。こんな気持ちになるとは思っていなかったので少しおどろきました。今回のオリンピックで、私はオリンピックが大好きになりました。それが、日本の長野県の長野市で、自分の家のすぐ近くで開かれて、自分が小学校6年生ですごく運が良かったと思います。4年後のオリンピックがすごくすごく楽しみです。（6年女子）

その後の一校一国運動①

交流国との相互訪問を続けている学校

西部中学校（トルコ共和国） 通明小学校（韓国）等

相互訪問の実績

交流コーナーに立つタンブナル中学校の先生方

<u>H24　9校</u>

派遣　2校（ルーマニア、デンマーク）

受入　7校（リトアニア、イギリス等）

<u>H25　11校</u>

派遣　7校（イギリス、中国、インド、韓国等）

受入　4校（サイパン、ルーマニア、トルコ、アメリカ）

<u>H26　8校</u>

派遣　3校（ルワンダ、イギリス、トルコ）

受入　5校（デンマーク、マレーシア、台湾等）

西部中学校　トルコ共和国のタンプナル校との交流を継続。訪問と訪問団受入を、隔年で行いホームステイを実施。トルコの様々な文化を学ぶと共に、日本文化の良さを伝えるなど、国際理解教育を学校の柱としている。

２０１３年
訪問受入の様子

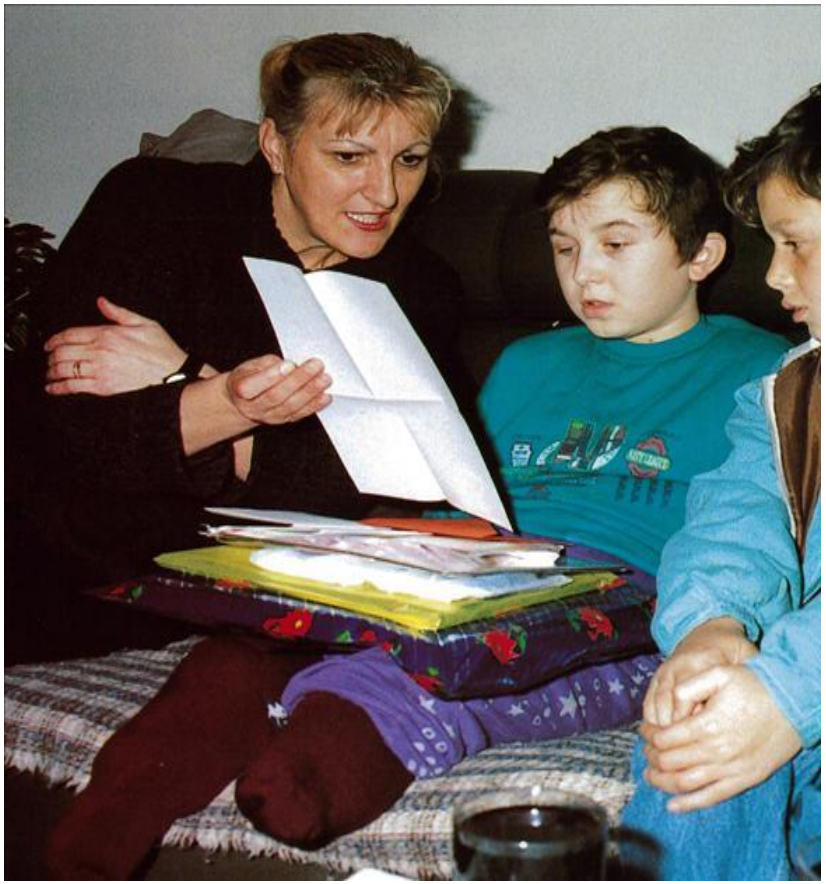
2014年のトルコ訪問の様子

（写真は学校提供）

その後の一校一国運動②

テーマに沿って学習や活動を継続している学校

三本柳小学校（地雷）　徳間小学校（エイズ）等



ルーマニアの友だちイオン君（徳間小）

三本柳小学校　ボスニア・ヘルツェゴビナ共和国との交流を通して知った「対人地雷問題」への学習をを継続。現在は、ルワンダ共和国出身のガテラさん夫妻との交流を続けている。今年１月に、児童4名がルワンダを訪問し、義肢製作工房等を見学した。

↑　義肢製作工房

←スカイプを使い、現地訪問団と学校を繋ぐ

（写真は、学校HPより）

「一校一国運動」推進上の課題

① 予算と時間の保障

交流や観戦、イベント参加等に必要な予算確保と、教育課程上の時間の保障

② 学校だけでない、多様な協力体制と理解

通訳など地域ボランティア、NPOや企業等の協力や保護者の理解

③ イベントに終わらない、活動の継続性

学習の必要感、交流の日常化

「一校一国運動」の成果

・児童生徒が、感動のある交流や学習を通じて、オリンピック・パラリンピック精神やスポーツの素晴しさを感じ、「おもてなしの心」を体得

・児童生徒が、文化の多様性を肌で感じるとともに、日本文化の良さを再認識

・各校の教育活動に、国際理解教育が位置付き、その後も交流を継続（36校）
・身につけた国際感覚やグローバルな視野を生かした生き方をする卒業生も

オリンピック・パラリンピックが残した意識

～　交流記録冊子　「世界の人とともに生きる」に掲載された
各校のページのタイトルから　～

LIETUVA
LITHUANIA

会いたい・話したい・伝えたい

とどけ声援

～がんばれ　僕らのリヒテンシュタイン公国～

内戦に苦しむ国から教わった

平和を願う心

世界と心をつなぐ

～ホスピタリティ（親愛）あふれる国際交流を目指して～

参考資料

大会終了後にIOC本部に招待を受ける

交流が始まったころの職員研修

語学研修　　市教育センター主催の研修

市教育センターで研修中

児童生徒の学習や活動

児童会・生徒会活動

若槻小の国際交流新聞

教科等の学習（競技・相手国等）

展示コーナーをつくって相手国への理解を深める活動は、ほとんどの学校で行われました。

児童生徒の学習や活動

クラブ活動

外国のリュージュの選手に教わりました（古里小）

初めてもらった手紙

カナダからきた手紙。
何ヵ月も待ちに待った手紙。
封筒の中に写真が入っていた。
ミッチェルは、髪の長い子。
リンダは、６人家族らしい。
外国の子と友だちになれた。
今すぐ返事を出したい。
心の中でヤッターとさけんだ。

（芹田小　6年児童）

選手団との交流

▲「きっと勝ってね」バージン諸島の選手に
必勝のハチマキを贈りました（松ヶ丘小）

交流会の内容

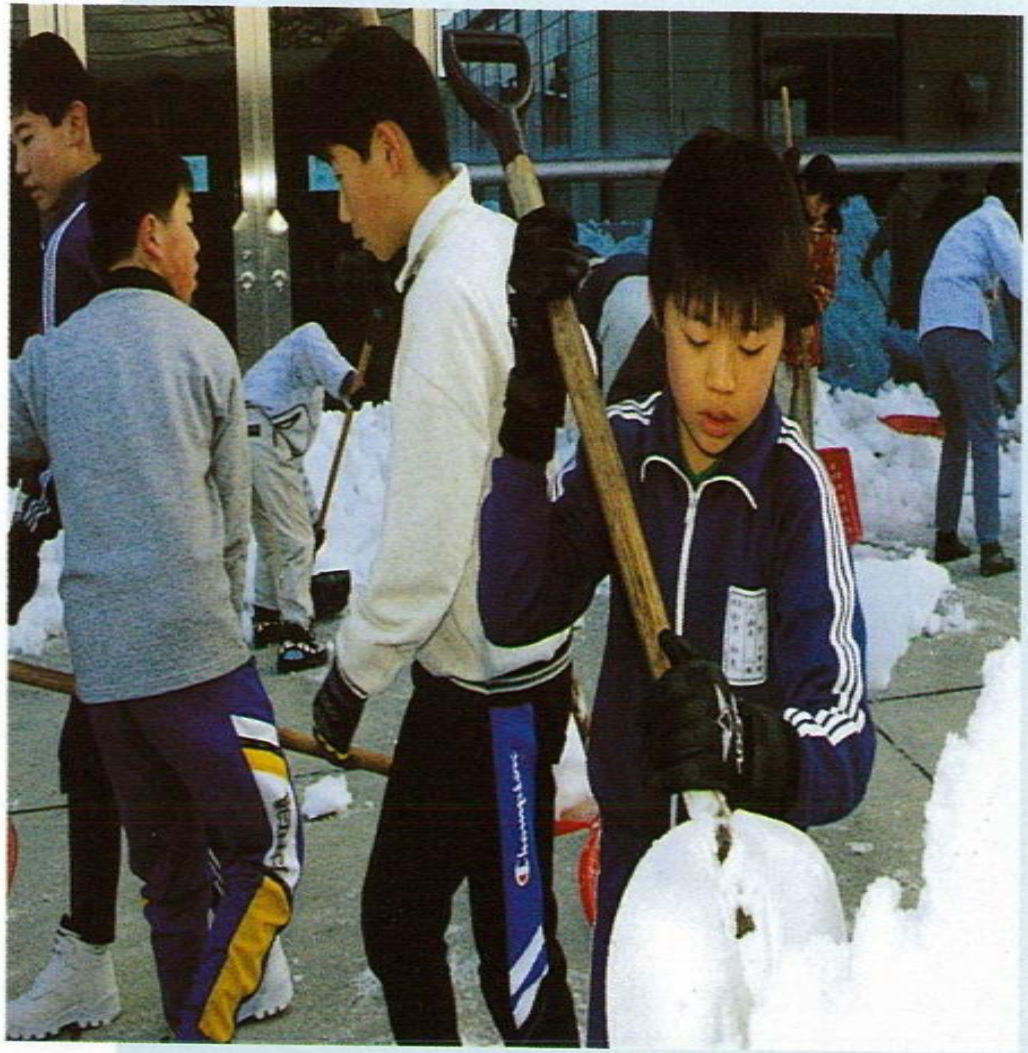
	種　類	総数		種　類	総数
文化・武道	習字	24	相手	相手国国歌	12
	太鼓・踊り・琴・茶ほか	32		相手国遊び・歌	7
	もちつき・もちやき ほか	6	歌・ダンス等	歌・手話歌・吹奏楽・合奏	49
	剣道・柔道・すもう	14		ダンス	45
日本の子どもの遊び	けん玉	33		スポーツ	21
	独楽	15		ゲーム	20
	ヨーヨー	14		その他の遊び	6
	竹とんぼ・竹馬	11	その他	会話	6
	折り紙	8		応援・エール	6
	あやとり	7		その他	8
	かごめ・花いちもんめ	5	総　計		362
	かるた・福笑い・はねつき	5			
	めんこ・おはじき	2			
	玉入れ・綱引き ほか	6			

ボランティア活動

学校に近いビッグハットの雪かきをしました。「アイスホッケーの試合を見に来る人が歩きにくかったり、入りにくいと困るから」という子どもたちの声で、高学年の子どもたちが全員でやりました。

（芹田小）

「学区内のホッケー会場・アクアウイングまでの道を歩く観客の皆さんのために、雪かきをしましょう。」生徒会から全校に呼びかけがありました。

「はあてぃ長野」から道具をお借りして、登校日には全校で、休日には地域の人と一緒に雪をかきました。大会が終わっても、地域ボランティアとして続けています。

（東部中）